令和２年度　看護実践企画委員会　活動報告

■委員名	委 員 長：平野通子 副委員長：石井俊行 委　　員：奥村和代・片山恵・崎濱富美・田川由香・永冨宏明・鷲田幸一・北野貞
■開催回数	6回
■活動目標	県内の参加者・発表者のニーズをアセスメントして企画し、参加者数の維持・増加を目指す。
■活動内容	１．令和２年度の看護実践研究会の企画検討 ・演題および一般参加者募集要項について検討 ・演題および一般参加者の再募集について検討 ・看護実践セミナーの検討（テーマ、講師、内容） ・当日のプログラム、運営スケジュールの検討 ・新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から看護実践研究会の運営方法の検討 ・応募演題の査読及び採否決定：　27題（8題は辞退）を査読し、19題を採択。 ・集録集の内容、構成について検討 ２．令和２年度看護実践研究会を開催 ・日程：令和２年11月21日 ・参加者：一般参加者83名（3密を避けるため150名募集とし、95名応募があった。） 委員9名、職員15名 ・発表演題数：実践報告12題（口演のみ）　研究報告7題（口演のみ） ・教育講演「臨床現場での実践をどのように研究につなげるか」山本則子　氏 リモートによる講演 ３．令和３年度看護実践研究会の企画検討 ・令和３年11月20日　開催予定 ・メインテーマ「新たな看護の創造」（予定）
■活動の評価	１．令和２年度看護実践研究会の企画検討 １）参加者・発表者のニーズに沿う企画を行うことができた。 ２）演題登録者に対し、査読者が丁寧なフィードバックを行った。 ３）会議数が少ない中で効率的、効果的に会議を運営し、タイミングよく課題解決及び意思決定をしていくことができた。 ２．令和２年度看護実践研究会の開催 １）コロナ禍での参加人数や開催方法の評価 ２）参加者アンケートの評価 ３）教育講演の評価 ４）口演発表の評価 ５）全体の運営の評価

■今後の課題	1．次年度も参加者・発表者のニーズをアセスメントして企画し、参加者数の維持・増加を目指す。 2．査読プロセスもこれまでの方針を踏襲し教育的に関わっていく。 3．研究会当日に活発な議論が促進されるよう企画運営していく。 4．コロナ禍でもできる看護実践研究会の企画運営を模索していく。